

令和7年度

# 黒部市教育センター事業の点検評価

## 報告書



令和8年3月  
黒部市教育センター

# 目 次

I	令和7年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針	1
II	点検評価の結果	
1	児童生徒の学力向上、教員の指導力向上	
(1)	授業改善に向けた指導・援助の充実	2
(2)	令和のとやま型教育事業の推進	3
(3)	初任者、若年教員及び中堅教員の資質向上	4
(4)	特別支援教育研修会	5
(5)	情報教育研修会	6
2	生徒指導・教育相談の充実	
(1)	生徒指導主事等研修会	7
(2)	いじめ問題等研修会・いじめ見逃し0の取組	8
(3)	教育相談の充実	9
(4)	不登校児童生徒に関わる取組	10
(5)	教育支援センターの運営の充実	11
(6)	SSW活用事業、いじめ対策SWの派遣事業の推進	12
3	特別支援教育	13
4	黒部国際化教育の充実	
(1)	外国語に関する授業の充実を目指す研究・研修	14
(2)	帰国児童生徒等に関する教育・研修の推進	15
5	学校教育を支援する調査・研究の推進	
(1)	全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用	16
(2)	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析とその活用	17
(3)	市科学展や発明くふう展への協力、吉田科学館との連携	18
(4)	情報教育研究委員会	19
6	幼・保・こ・小・中学校の連携事業	20
7	迅速な教育サービスの提供	
(1)	情報提供	21
(2)	視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷	22

# I 令和7年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針

## 1 趣旨

教育センター運営の改善・改革を目指し、事業の執行状況について点検及び評価（以下「点検評価」と言う）を実施する。

## 2 点検評価の対象

令和7年度の黒部市教育センター事業

## 3 点検評価の方法

(1) 「令和7年度黒部市教育センターの要覧」に掲げる項目に基づき、事業内容ごとに点検評価シートを作成し、次の5段階による総合評価を行う。

評価	評価の基準等	達成度の目安
AA	目標を十分達成し、期待以上の成果が得られた。	100%以上
A	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。	80～100%
B	目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。	60～80%
C	目標をあまり達成できず、成果が少なかった。	30～60%
D	目標をほとんど達成できず、成果が少なかった。	0～30%

(2) 黒部市教育センター運営委員会での検討

自己点検評価したものについて、黒部市教育センター運営委員9名において、客観的な視点で検討する。

### 【黒部市教育センター運営委員名簿】

	氏名	役職
運営委員長	岡本 薫	小学校長会会長（桜井小学校）
運営副委員長	柴田 由明	中学校長会会長（明峰中学校）
運営委員	桐 義輝	次長・学校教育課長（黒部市教育委員会）
運営委員	若島 肇	学校教育班長（黒部市教育委員会）
運営委員	高野 正規	こども支援課長（黒部市市民福祉部）
運営委員	寺島 紀子	小学校教育研究会会長（村椿小学校）
運営委員	城寺 賢二	中学校教育研究会会長 生徒指導連絡協議会会長（清明中学校）
運営委員	平田 恩	帰国児童生徒教育研究会会長（中央小学校）
運営委員	中森 晴美	小中学校教頭会会長（石田小学校）

(3) 報告及び公表

点検評価に関する報告書を作成し、ホームページの掲載等により公表する。



## Ⅱ 点検評価の結果



### 1 児童生徒の学力向上、教職員の指導力向上

事業・研修会名	1－(1) 授業改善に向けた指導・援助の充実
内容・方策	<p>富山県教育委員会や黒部市教育委員会の指導方針に即し、学校運営や教育指導、研修に関して指導助言し、学校課題の解明や教育実践の効果を高めることを目的として学校訪問を行う。</p> <p>○ 通常訪問では、各教科等の授業を参観し、部会協議会において、東部教育事務所の指導主事とともに指導助言にあたる。</p> <p>○ 1～2学期に市教委・市教セによる学校訪問を実施し、初任教員や若手教員の授業を中心に参観する。授業後の懇談では、若手教員の悩みや話を聞くことを中心に面談をする。必要に応じて、学級経営や授業の進め方、子供の対応等について指導助言する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常訪問では、東部教育事務所指導主事とともに部会協議会において指導助言を行った。学校運営や授業等について気付いたことをまとめ、各学校に報告した。また、校長研修会において、学校訪問研修の概要（前期・後期）をまとめ、報告した。</li> <li>・市教委・市教セによる学校訪問では、若手教員にとって日頃の様子や悩んでいることを話せるよい機会となった。配慮が必要な子供や保護者への対応に悩んでいる若手教員が多く、その事案は丁寧に向き合うことで子供や保護者との信頼関係ができてくること、一人で悩まずに周りの人たちと相談することの大切さなどを伝えた。また、指導場面におけるよさを具体的に認めることで、初任教員や若手教員の自信につながり、次への意欲をもつ手助けができた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市教委・市教セ訪問の趣旨（若手教員の日々の取組を応援をする）を周知し、若手教員にとって負担にならないように進めていく必要がある。また、各校、各教員の課題に応じて実施できるように、事前の打合せや事後の情報共有を丁寧に進めていく必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	1－(2) 令和のとやま型教育推進事業
内容・方策	<p>R6年度の全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査結果から、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」や「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」という質問に対して肯定的に答えた児童生徒の割合が全国よりも低かった。また、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答している児童生徒の割合も全国よりも低かった。確かな学力につながる「問題発見・解決能力」の育成には、教師主導の授業ではなく、児童生徒の問題（課題）意識を高め、自己調整しながら学習を進めることができるようにすることが必要である。そこで、今年度の研究課題を「主体的に学ぶ児童生徒の育成」とし、荻生小を研究推進校として取り組んだ。</p> <p>○研究推進校での取組</p> <p>○外国語教育研修会  【日時・場所】6月6日（金）清明中学校  11月14日（金）黒部市教育センター  【演題】「『話すこと』の指導を充実させるために」  【講師】富山大学大学院教職実践開発研究科 教授 岡崎 浩幸 先生</p> <p>○i-checkを活かした学級経営について  【日時・場所】8月20日（水）黒部市教育センター  【演題】「i-checkの読み取りを学級経営・学力向上に活かす」  【講師】東京家政大学 非常勤講師 山浦 秀男 先生</p> <p>○学力向上に関する研修会  【日時・場所】8月25日（月）宇奈月小学校 多目的ホール  【演題】「子供たちが主体的・対話的に学ぶための授業づくりと教師の手立て」  【講師】富山大学 准教授 増田 美奈 先生</p> <p>○研究の報告書作成と報告会での発表</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究を始めるにあたって、推進校である荻生小学校と、黒部市の今年度の研究課題が「主体的に学ぶ児童生徒の育成」であることや「とやま型学力向上プログラムⅢ期」と一体的に推進することなど共通理解を図った。</li> <li>・推進校での研究課題を基に児童の姿から具体的な研究テーマを設定して研究を進めた。</li> <li>・i-checkを活かした学級経営についての研修会では、受講者の学級の実際のデータを持ち寄り、「i-checkの結果の読み取り方」「学級経営への活かし方」「エビデンスに基づいた具体的な指導の例」等について教えていただいた。</li> <li>・市教育センターで主催した学力向上に関する講演会・研修会の満足度が大変高かった。講演の内容が「大変参考になった」「参考になった」の割合が、「学力向上に関する研修会」、「i-check研修会」、「外国語教育研修会」いずれも100%であった。研修会や講演会では、実際の授業を参観して意見交換したり、自分のクラスの子供の実態を実際に分析する時間を設けたりするなど、先生方が実践に活かしやすいように工夫したため、充実感が大きくなったものと考えられる。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に関する講演会への参加率は、市内教職員の2割程度であった。学校訪問研修会等での様子から、授業改善に前向きに取り組む教職員は増えてきていると思われる。教員のニーズに即して、授業改善の取組をさらに活性化するよう研修会の内容や周知の仕方について工夫が必要である。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は、令和のとやま型教育推進事業が非認知能力育成推進事業になる予定である。県の事業に沿って深まりのある研究をしていく。</li> </ul>

事業・研修会名	1-(3) 初任者、若年教員及び中堅教員の資質向上にかかる研修																														
内容・方策	<p>初任者、若年教員がそれぞれ集まり、学級経営上の諸問題や日々の悩みを話し合うことで、気持ちを楽にしたり、横の連携を強めたりし、互いに相談し合える体制を構築できるようにする。</p> <p>&lt;学級経営研修会（新規採用者対象）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1・2回【4/3、5/9】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・始業式前、着任1ヶ月後と相談が必要と思われるタイミングを見計らって研修（グループトーク）を実施。</li> </ul> </li> <li>○ 第3回【7/7】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導講話 講師：齊藤 誠 教育長</li> <li>・振り返りのグループ協議（悩みや課題に対する手立て等）</li> </ul> </li> <li>○ 第4回【8/20】 i-check 研修会に参加</li> <li>○ 第5回【1/9】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導講話 講師：若島 肇 学校教育班長</li> <li>・振り返りのグループ協議（悩みや課題に対する手立て等）</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;チーム学校を支えるマネジメント研修会（2・3年次教員対象）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2、3年次教員【5/1】保護者と連携した学級経営の実際 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：東部教育事務所 生活指導主事 四月朔日秀崇 先生</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;郷土を学ぶ研修会（希望者・黒部市に異動してきた教員対象）&gt;</p> <p>【日時・場所】7/31 北方領土史料室、YKK AP 技術館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：濱松 禎高 さん</li> <li>・北方領土と黒部の関わり、黒部の最先端技術等について学ぶ</li> </ul>																														
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <div data-bbox="432 947 1276 1384"> <p style="text-align: center;">R7学級経営研修会(初任者)への研修事後アンケート(複数回答)</p> <table border="1"> <caption>R7学級経営研修会(初任者)への研修事後アンケート(複数回答)</caption> <thead> <tr> <th>回次</th> <th>不安な気持ちや悩みを共有できてよかった</th> <th>同期の仲間と交流ができてよかった</th> <th>授業改善・指導のヒントが得られた</th> <th>仕事への意欲につながった</th> <th>特になし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>40%</td> <td>90%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>65%</td> <td>85%</td> <td>15%</td> <td>35%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>35%</td> <td>65%</td> <td>35%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>55%</td> <td>65%</td> <td>15%</td> <td>25%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級経営研修会の研修事後アンケートから、第1回は「同期の仲間と交流ができてよかった」と捉える初任者が9割以上で最も多く、横のつながりを築く上で一定の役割を果たしていたと言える。第2回では「不安な気持ちや悩みを共有できてよかった」と回答する初任者が多くなり、以降「授業改善・指導のヒントが得られた」や「仕事への意欲につながった」という意見も増加していった。</li> <li>・チーム学校を支えるマネジメント研修会では、適切な保護者対応について実践形式で研修し、「大変参考になった・参考になった」と回答した受講者が100%であった。</li> <li>・郷土を学ぶ研修会では、以前受講したことのある中堅教員が若手教員を誘って参加しているケースが増えている。また、児童生徒の校外学習につなげようと施設の方に熱心に質問をしている姿も見られ、よい機会となった。</li> </ul>	回次	不安な気持ちや悩みを共有できてよかった	同期の仲間と交流ができてよかった	授業改善・指導のヒントが得られた	仕事への意欲につながった	特になし	第1回	40%	90%	20%	0%	0%	第2回	65%	85%	15%	35%	0%	第3回	35%	65%	35%	30%	0%	第5回	55%	65%	15%	25%	0%
回次	不安な気持ちや悩みを共有できてよかった	同期の仲間と交流ができてよかった	授業改善・指導のヒントが得られた	仕事への意欲につながった	特になし																										
第1回	40%	90%	20%	0%	0%																										
第2回	65%	85%	15%	35%	0%																										
第3回	35%	65%	35%	30%	0%																										
第5回	55%	65%	15%	25%	0%																										
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な研修や情報交換の場を大切にし、若手の先生の不安を少しでも取り除けるようにしていきたい。</li> <li>・新採でも新卒～7年次、社会人経験豊富な方など多様化しており、先生方のニーズに即した研修内容となるように改善を図っていきたい。</li> </ul>																														
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>																														

事業・研修会名	1－(4) 特別支援教育研修会
内容・方策	<p>特別な支援を必要とする児童生徒への教育を推進するため、専門機関等と連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導を行えるよう、研修を行う。</p> <p>○ 特別支援教育に関する講演会（実施、受講者 18 名）</p> <p>【日時】 8 月 6 日（水）黒部市教育センター</p> <p>【演題】 「特別支援教育の視点を生かした 授業づくり、学級づくり」</p> <p>【講師】 県インクルーシブ教育推進員 浜松 英久 先生</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害の有無にかかわらず、子供に合理的に配慮する授業のユニバーサルデザインについて、具体的な実践事例を紹介していただいたことで、受講者の実践への意欲が高まった。</li> <li>・ 事後アンケートで「児童との関わりにおいて、現在悩んでいることについて、具体的な手掛かりを得ることができ、とても有意義だった」等の記述が多く、先生方のニーズに合った研修内容であった。</li> <li>・ 研修後の事後アンケートでは、「大変参考になった、参考になった」と回答した教員が 100%であった。</li> <li>・ 各学校の特別支援教育コーディネーターの参加が多く、学校の先生方に研修の内容を伝えたい、との感想が見られ、伝達講習の材料とすることができた。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通常級の担任を対象とした研修内容としたが、参加者のほとんどは特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーター等であった。特別支援な支援が必要な児童・生徒は年々増加傾向にあり、通常級においてもその割合が増加しているため、通常級の担任等、多くの教員が受講できるよう努める。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度も、夏季休業中に講師を招聘して市の研修会を行う。通常級の担任や通級指導教室の担当者を対象の中心とし、特別支援教育の視点を活かした授業づくりや学級づくりの具体例を学び、すぐに生かせるような研修を設定する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>1－(5) 情報教育研修会</b>
内容・方策	<p>黒部市の児童生徒の情報活用能力の育成及び向上を目指して、情報教育研修会や情報チェックシートを活用したセルフチェックに取り組んだ。また、児童生徒端末 OS の更新に伴い、児童生徒がスムーズに端末に慣れ親しんでいけるように、全教員が事前に必要な情報を共有したり、操作方法等について研修したりした。</p> <p>○スタートアップ研修  <b>【日時】</b> 6月20日（金） 市教セ 参加29名  <b>【講師】</b> Google for Education Japan 福井 照子 先生  ・Google for Education 概要の説明および Google Workspace for Education の主要アプリ活用の児童生徒側の体験。</p> <p>○コア研修、コア PLUS 研修  <b>【日時】</b> 8月1日（金）、4日（月）市教セ、明峰中 参加202名  <b>【講師】</b> 株式会社ストリートスマート 講師 6名  ・Google Workspace for Education の教師としての操作習得。  ・Google Workspace for Education の各アプリを活用できる場面を考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>○第1回～第3回情報教育委員会【6/5 6/20 2/4】  黒部市小中学校の情報活用能力育成に向けての具体的取組  ※詳細については5－(4)参照。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>・全教員を対象に Google の Kickstart Program 2.0 を活用した研修を実施した。管理職・情報教育研究委員を対象としたスタートアップ研修では、実際に体験しながら研修することで OS 更新に向けて見通しをもつことができた。夏季休業中には教員が自分のスキルに合わせてコア研修とコア PLUS 研修を選択できるようにしたことで「大変参考になった・参考になった」と回答する先生の割合が 99.4%と多かった。</p>
課題・改善	<p>・児童生徒の端末更新後、研修で学んだことを授業改善に生かしている様子も見られるが、まだ十分に活用できていない教員も多いようである。</p> <p>・市教セで実施した際、Wi-Fi 環境が悪くインターネットに接続しにくいことがあったため、改善を図る。</p>
今後の方向性	<p>・令和8年度は、授業や校務における ICT の効果的な活用について、実際に授業で実践している様子を見学するなど、先生方の実践意欲が向上するような研修を進めていく。</p>

## 2 生徒指導・教育相談の充実

事業・研修会名	<b>2－(1) 生徒指導主事等研修会</b>
内容・方策	<p>生徒指導主事等の資質・能力の向上を目的とし、日常的に起こり得る課題への対応について、年4回研修会を開催する。児童生徒を9年間で育てるという視点と、小中連携の意識向上のため、中学校区ごとのグループで情報交換や生徒指導上の課題の共有を図る。</p> <p>【第1回 5/16】「SNS 危険防止研修会」 講師:黒部警察署生活安全課 河合 正輝 先生</p> <p>【第2回 6/13】「30分でできるケース会議」 講師:富山県総合教育センター 教育相談部</p> <p>【第3回 11/7】「不登校・不登校傾向の児童生徒への対応」 講師:東部教育事務所 生活指導主事 四月朔日 秀崇 先生</p> <p>【第4回 2/12】「いじめ見逃し0に向けて」 講師:東部教育事務所 主任生活指導主事 轡田 真理 先生 「初期聴取の方法について」 講師:富山県警 傍受指導係長 住和 慎一郎 先生</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4回の研修会で、様々な視点からの講話を聴くことで、新しい情報を得たりより広い視野をもったりすることができ、生徒指導主事等の資質・能力の向上につなげることができた。</li> <li>〈事後アンケートより〉</li> <li>・子供たちが加害者・被害者にならないように自己調整できるような指導・支援をしていきたい。</li> <li>・短時間のケース会議を通して役割分担をすることで負担感を減らせると思った。本校は若手教員が多いのでこのケース会議のやり方を知らせたい。</li> <li>・居心地の良い学校・学級とは、規律と親和的な関わりのバランスが取れていることだということを知り、授業に内在化した生徒指導等について学校で周知したい。</li> <li>・校区内の情報交換では、支援を必要とする児童生徒の情報共有だけでなく、中学校で活躍がみられる生徒について小学校の教員に伝え、生徒の成長を小中の教員と一緒に喜ぶ姿が見られた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導上の課題は個別的で多岐にわたり、変化も大きい。チームで対応するための校内体制づくりが重要であり、その要となる生徒指導主事の力量アップを図る必要がある。</li> <li>・校区ごとの情報交換の時間では、児童生徒の様子や校区内の危険箇所等、課題についての情報共有のみならず、発達支持的生徒指導の視点をもった意見交換することで、小中連携の意識がさらに高まる。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>2-(2) いじめ見逃し0の取組、いじめ問題等研修会</b>
内容・方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題や関連して起こる不登校の問題について「黒部市いじめ防止基本方針」に即し、組織的な対応ができるよう研修を深める。</li> <li>・いじめ見逃し0を目指す視点シートの活用、いじめの実態把握（認知件数の報告）を促し、市全体で共有して対応を考える。</li> <li>・「いじめ問題等研修会」を教頭対象に年2回実施し、いじめの未然防止や早期発見、適切な対処について研修を深める。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「黒部市いじめ防止基本方針」に即して改訂した「いじめ見逃し0宣言」のデータを学校間共有に保存し、校内研修等での活用を促した。</li> <li>・毎月、各学校からの報告をまとめて校長会で共有したり、いじめ見逃し0を目指す視点シートをの結果を基に学校での取組に活かすことができるような内容を提案したりした。報告様式を県に提出するものと同様のものに変更し、学校の負担減に繋げた。</li> <li>・【第1回】4月18日 講師:黒部市教育委員会 学校教育班長 若島 肇 先生 年度当初に当たり、黒部市教育の方針や教頭の役割等について、全小・中学校教頭が共通理解を図り、職務上大切にすべきことを改めて確認した。具体的な場面を提示し、教頭としてどう対応すべきか投げかけ、考えることができた。</li> <li>・【第2回】2月12日 講師:東部教育事務所 主任生活指導主事 轡田真理 先生 いじめに関する児童生徒や保護者への対応についての留意点や、組織で対応する際のポイント等を、グループワークを交えながらお話ししてくださった。校内体制づくりと丁寧な対応の重要性の理解が高まった。 講師:富山県警察本部 傍受指導係長 住和 慎一郎 先生 虐待等の疑いがあり児童生徒に話を聞く際の留意事項についてお話しいただいた。学校で行う面接とは違う点が多くあり、たいへん参考になった。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さいいじめの芽を見逃さず早期対応に努めるとともに、教員の人権感覚や認知についての理解と実践が深まるよう研修を充実させる必要がある。</li> <li>・いじめを含む学校の危機管理の際に、法律やガイドラインを遵守する視点をもつことが必要な場合がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>2－(3) 教育相談の充実</b>																																																																																										
内容・方策	<p>教育支援センター「ほっとスペースあゆみ」と教育センターにおいて、来所、電話等による教育相談を実施し、保護者、児童生徒、教員の悩みや課題の解決に向けて支援を行う。</p> <p>○ 保護者向けの教育相談の案内を安全メールで年3回送付する。</p> <p>○ 保護者からの教育相談を受け、相談内容によっては学校に連絡したり、学校と協議したりして、保護者や児童生徒の支援にあたる。</p> <p>○ 市教委・市教セによる訪問や学校訪問において、教員の悩みや課題を把握し、要望に応じて継続的な支援に繋げる。</p>																																																																																										
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>・相談件数と主な内容（令和8年2月13日現在）</p> <table border="1" data-bbox="434 701 1366 1328"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>小学生</th> <th>中学生</th> <th>高校生</th> <th>その他</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来所相談</td> <td>44</td> <td>13</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>電話相談</td> <td>26</td> <td>11</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>訪問相談</td> <td>53</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>巡回相談</td> <td>9</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>SNS等オンラインを活用した相談</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>133</td> <td>32</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>174</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">内 数</td> <td>いじめに関する相談</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不登校に関する相談</td> <td>72</td> <td>14</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>いじめを除く友人関係に関する相談</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>教職員との関係をめぐる相談</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>学業・進路に関する相談</td> <td>36</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>家庭に関する相談</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>40</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>53</td> </tr> </tbody> </table> <p>・昨年度と比べ、保護者からの相談件数が増えた。その理由として、教育相談の案内を安全メールで送付するとともに、学校から紙媒体による案内を別の時期に配付し、周知の仕方を工夫したことが効果的だったと考えられる。</p> <p>・学校に直接相談することに躊躇する保護者と学校を繋いだ件が数件あった。</p> <p>・教育支援センター指導員とも連携を密にすることで、児童生徒だけでなく保護者にとっても効果的な支援につなげることができた。</p>						区分	小学生	中学生	高校生	その他	計	来所相談	44	13	0	2	59	電話相談	26	11	3	4	44	訪問相談	53	6	0	0	59	巡回相談	9	2	0	0	11	SNS等オンラインを活用した相談	1	0	0	0	1	計	133	32	3	6	174	内 数	いじめに関する相談	0	0	0	0	0	不登校に関する相談	72	14	0	0	86	いじめを除く友人関係に関する相談	3	4	0	0	7	教職員との関係をめぐる相談	0	0	0	0	0	学業・進路に関する相談	36	9	0	3	48	家庭に関する相談	10	3	1	0	14	その他	40	8	2	3	53
区分	小学生	中学生	高校生	その他	計																																																																																						
来所相談	44	13	0	2	59																																																																																						
電話相談	26	11	3	4	44																																																																																						
訪問相談	53	6	0	0	59																																																																																						
巡回相談	9	2	0	0	11																																																																																						
SNS等オンラインを活用した相談	1	0	0	0	1																																																																																						
計	133	32	3	6	174																																																																																						
内 数	いじめに関する相談	0	0	0	0	0																																																																																					
	不登校に関する相談	72	14	0	0	86																																																																																					
	いじめを除く友人関係に関する相談	3	4	0	0	7																																																																																					
	教職員との関係をめぐる相談	0	0	0	0	0																																																																																					
	学業・進路に関する相談	36	9	0	3	48																																																																																					
	家庭に関する相談	10	3	1	0	14																																																																																					
	その他	40	8	2	3	53																																																																																					
課題・改善	<p>・教育相談の内容を学校に連絡した後、その後の様子についても継続的に把握するよう努める。</p> <p>・市教委や関係機関と連携して対応していかなければいけない場合がある。連絡を密に取りながら協力体制を整えていきたい。</p>																																																																																										
今後の方向性	<p>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</p>																																																																																										

事業・研修会名	<b>2-(4) 不登校児童生徒に関わる取組の充実</b>
内容・方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 不登校の現状と対応について把握し、情報を整理して各校や市教委と共有したり、必要な支援に関する情報を提供したりする。</li> <li>○ 不登校を未然に防いだり、対応への理解を深めたりするための研修を実施する。</li> <li>○ 教育相談活動により保護者の児童生徒理解を深め、保護者自身の心や家庭生活の安定を図る。</li> <li>○ 小中学校、市教委、教育支援センター、SSW等の連携が円滑に進むように連絡調整に努める。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導に関する月例報告により、各校の長期欠席児童生徒や別室登校児童生徒の様子や学校の対応について把握し、校長研修会で共有するとともに、市内の不登校の数を市教委に報告した。不登校児童生徒数は年々増加しており対応が喫緊の課題である。学校への登校が0の児童生徒もおり、粘り強く支援する必要がある。</li> <li>・生徒指導主事研修会で東部教育事務所の生活指導主事を講師として招聘し、不登校について、全国や富山県の現状を交えながら、ワークショップを交えながらお話しいただいた。児童生徒と教員の関係性の重要性や日々の学習指導の重要性を再認識できた。</li> <li>・不登校に関する保護者からの教育相談がある。保護者の思いに寄り添って傾聴するとともに、児童生徒の良さや強み、多様な学び方や進路に目を向けるような助言を行った。また、学校と情報共有をした。</li> <li>・教育支援センターへの通所から校内教育支援センターへの登校につながることができた事例があった。SSWを教育支援センターに派遣し生徒と一緒に活動することで、学校とのつながりの一歩としたい。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰一人取り残されない教育環境づくりのために、教員の資質向上のための研修の機会を今後も設定する。（授業づくり、学級づくり、集団づくり等）</li> <li>・校内教育支援センターとの連携を強化できるような体制づくりを工夫する。</li> <li>・不登校対応は、個に応じて様々な配慮が必要である。多様な視点をもつことができるよう、事例や情報を共有し、効果的な対応の事例を生かすことができるようにする。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>2－(5)教育支援センターの運営の充実</b>
内容・方策	<p>教育支援センター「ほっとスペースあゆみ」において、通所している小・中学校の不登校児童生徒やその保護者に対して、学校と連携を図りながら様々な指導、支援を行い、児童生徒の集団生活や社会生活への適応、社会的自立への足がかりとなるよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通所児童生徒の実態に即し、成長に役立つ活動を実施する。</li> <li>○ 相談活動により保護者の児童生徒理解を深め、保護者自身の心や家庭生活の安定を図る。</li> <li>○ 関係小・中学校及び市教委、関係機関と連携しながら児童生徒の支援を行う。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度通所した児童生徒は11名（小学生8名、中学生3名）である。そのうち、5名が100日以上通所しており、教育支援センターが居場所となっている。</li> <li>・通所している児童生徒の状況に合わせ、個別の指導計画を立てて指導にあたった。市教セから教育支援センターに適宜訪問し、指導員とこまめに連絡・相談することにより、児童生徒や保護者への適切な支援・対応に努めた。また、在籍校には、月ごとに出席日数及び児童生徒の活動報告を学校に届けるとともに、学校からの月例報告にある通所児童生徒の学校での様子について、教育支援センターと共有した。</li> <li>・保護者と指導員等、保護者同士が懇談する場（おしゃべりカフェ、月1回）を設けている。保護者同士で悩みや情報を共有したり、人とつながったりするよい機会となっている。今年度は市特別支援教育コーディネーターも保護者との面談に参加した。</li> <li>・校内教育支援センター支援員との連携を図り、共通の認識をもって児童の支援にあたることができた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援センターと学校との連絡やケース会議等の時間をもつことができるよう、時間の調整やICTの活用等を工夫していく必要がある。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターや中学校のカウンセリング指導員との連携や、相談員の研修への参加により、一人一人に応じたより効果的な支援に繋げていく必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>2－(6) S S W活用事業、いじめ対策S W派遣事業の推進</b>
内容・方策	<p>いじめや不登校等、学校・家庭が抱える課題に対応するため、S S Wを派遣し、課題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけや関係機関との連携・調整等を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各中学校及び教育センター所属のS S Wが学校の要請に応じて、家庭訪問したり電話連絡したりして、課題を抱える児童生徒やその保護者との面談を行う。</li> <li>○ 関係機関等とのネットワークを活用し、学校では発見しにくい家庭内の問題や子供の問題等について協議し、支援内容を学校に連絡したり、学校で一緒に協議したりする。</li> <li>○ S S Wが小・中学校を訪問し、S S Wの役割についての説明や活用促進の呼びかけを行う。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>&lt;板東S S W&gt; 2中学校区所属  清明中学校と校区の小学校、明峰中学校と校区の小学校を基本として巡回勤務した。県 408 時間  働きかけをした対象者(実数) 児童生徒 36 名、家族 18 名</p> <p>&lt;丸山S S W、いじめ対策S W&gt; 教育センター所属  年間を通して明峰中と清明中、3学期に教育支援センターへの勤務とした。県時間 238 時間  働きかけをした対象者(実数) 生徒 9 名、家族 3 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問や個別面談により児童生徒や保護者と関わったり、学校や教員と連携したりすることを通して、学校不適応の状況改善のために働きかけることができた。</li> <li>・県からの派遣時間数が増えたことで、中学校には毎週派遣することができ、相談室での生徒の見守りや家庭訪問等を充実させることができた。また、教育支援センターへの派遣を通して、児童生徒との関わりを広げることができた。</li> <li>・S S W同士で連絡を取り合い、連携する姿がみられた。</li> <li>・就学時健診での保護者への広報活動等を通して、学校や保護者にS S Wの役割について広く知らせることができた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校への定期的な巡回を基本とし、必要な学校には連絡・調整を図りながら、重点的に支援できるような体制を整える。</li> <li>・家庭訪問以外の業務についてより多くの教員に知らせてさらなる活用を図る。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>

### 3 特別支援教育

事業・研修会名	<b>3 必要に応じた学校訪問、小中学校の特別支援教育への指導助言</b>								
内容・方策	<p>市全域に関わる特別支援教育コーディネーターとして、特別支援教育の対象となる児童生徒やその家族が、必要な配慮やサポートを受け、将来を見据えた学校生活を安心して送ることができるように支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者の相談窓口となる。</li> <li>○要請に基づいて学校へ訪問し、担任や関係者の支援(コンサルテーション)を行う。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒のアセスメント(聞き取り、行動観察、諸検査等)を行う。</li> <li>・児童生徒への接し方、学習環境、校内体制等について、具体的、継続的な支援を行う。</li> <li>・必要に応じて保護者面談に参加する。</li> </ul> </li> <li>○研修会等を通して、特別支援教育に関する理解・啓発を図る。</li> <li>○地区相談会、市教育支援センターのケース会議、市特別支援教育コーディネーター研修会、市教育支援委員会に参加し、関係者や関係機関との連絡調整に当たる。</li> </ul>								
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の相談 → 2-(3)教育相談の充実 参照</li> <li>・学校支援 (R8.2.16 現在 市教育支援委員会関係は除く)</li> </ul> <table border="1" data-bbox="544 1198 1326 1368"> <thead> <tr> <th data-bbox="544 1198 799 1279">担任等支援 (ケース会議含む)</th> <th data-bbox="804 1198 1007 1279">保護者面談 (三者懇談等)</th> <th data-bbox="1011 1198 1214 1279">検 査 (WISC 等)</th> <th data-bbox="1219 1198 1326 1279">計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="544 1285 799 1368" style="text-align: center;">3 9</td> <td data-bbox="804 1285 1007 1368" style="text-align: center;">1 3</td> <td data-bbox="1011 1285 1214 1368" style="text-align: center;">4</td> <td data-bbox="1219 1285 1326 1368" style="text-align: center;">5 5</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">前年比 +14件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市スタディメイト研修会、市特別支援教育コーディネーター研修会、市中教研特別支援教育部会、県総教セ「特別支援教育講座」において、講師として理解啓発に努めた。</li> <li>・保護者や担任、関係者からの相談に対しては、それぞれの立場を尊重しながら話を聴き、事実関係を確認して、解決志向で話し合うことができた。保護者からの相談では、承諾を得た上で学校との連絡調整を行い、次の支援体制へつなぐことができた。</li> <li>・学校のケース会議において、児童生徒の家庭に直接関わっている福祉関係の担当者と情報共有をすることができ、一緒に今後の支援策について検討することができた。</li> </ul>	担任等支援 (ケース会議含む)	保護者面談 (三者懇談等)	検 査 (WISC 等)	計	3 9	1 3	4	5 5
担任等支援 (ケース会議含む)	保護者面談 (三者懇談等)	検 査 (WISC 等)	計						
3 9	1 3	4	5 5						
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の児童生徒に関しても、本人の特性の理解に基づいて支援を継続していく必要がある。校内における連携体制や学校、校内支援センター、ほっとスペースあゆみ、SC、SSW 等相互の日頃からの情報共有、連携体制を促進していきたい。</li> </ul>								
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>								


#### 4 黒部国際化教育の充実

事業・研修会名	4-(1) 外国語に関する授業の充実を目指す研究・研修の推進
内容・方策	<p>黒部国際化教育推進のため、各種事業のうち特にコミュニケーションの基礎力養成のための諸活動の企画運営をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各部会の開催と専門部会の充実</li> <li>○外国語教育に関する研修会の開催</li> <li>○授業公開月間の企画・運営・評価</li> <li>○英語の指導に関する指導計画やまとめの作成、指導と評価の一体化や連携の在り方等の検討</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織部会を年2回、企画・運営・評価部会を年2回、外国語教育研究部会を年3回開催した。組織部会では、黒部国際化教育の各事業についての協議と評価を行った。企画・運営・評価部会では主に授業公開月間の運営の仕方について話し合った。</li> <li>・外国語教育研究部会は、授業力向上に向けて授業参観や動画視聴、ICT活用事例紹介と意見交換を行った。授業参観や動画視聴して意見交換を行った場合のほうが参加者の満足度が高い。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="539 972 842 1285" style="text-align: center;"> <p>授業参観後に意見交換</p> <p>very helpful helpful</p> </div> <div data-bbox="906 972 1219 1285" style="text-align: center;"> <p>事例紹介</p> <p>very helpful helpful</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校1、2年英会話、中学校英会話科の授業力向上を目的として、石田小、桜井小、宇奈月小、清明中、明峰中で計13コマの授業が公開された。来校者数は5校合わせて、保護者102名（昨年度112名）、その他93名（昨年度54名）であった。今年度は地域住民や幼稚園・保育所職員の参観が増加した。公開月間に全学級で公開し、全校で授業力向上に取り組んだ小学校があった。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の重点を明確にし、各専門部会の組織を生かしながら各種事業を展開したり、教員のニーズに合った授業力向上に向けた取組を継続したりしていく。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、黒部国際化教育推進のため、児童生徒のコミュニケーション基礎力向上に向けて、推進協議会、市教委及び校長会と協議をしながら取組を継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	4-(2)帰国児童生徒等に関する教育・研修の推進
内容・方策	<p>帰国児童生徒及び外国人児童生徒が、日本の学校生活や生活様式に適應できるように支援する。（黒部市とYKKからの補助金と各校からの会費等により研究活動を進める）</p> <p>① 帰国・外国人児童生徒がスムーズに学校生活を送ることができるように、学校・市教委と連携して指導にあたる。</p> <p>② 保護者会やサマースクールの開催、会報「Access」の発行を行う。</p> <p>③ 国際理解教育の充実を図るため、県外研修報告や全体研修会を行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>① について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央小1名（5年生外国人児童）、たかせ小2名（2, 3年生外国人児童）、清明中1名（3年生外国人生徒）の付き添い指導をしている。外国人児童生徒が学習内容や教師の指示を理解していないと思われる場合に、分かりやすい言葉で説明したり、実際にやって見せたりすることで、安心して活動に参加することができるよう、サポートしている。</li> <li>・桜井小、中央小、若栗小、宇奈月小、清明中、明峰中に外国の文化や生活についての掲示を貸し出し、国際理解のきっかけづくりに努めた。</li> </ul> <p>② について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回保護者会（6/21 中央小学校 保護者2名参加）</li> <li>・第2回保護者会（12/6 中央小学校 保護者9名、子供11名参加）親子活動では、もちつき体験を行った。懇談会では、海外や日本での学校生活について話題になった。</li> <li>・サマースクール（8/1 黒部市内 保護者5名、子供12名）科学工作（吉田科学館）、清水めぐり（生地地区）、水だんご作り（生地コミュニティセンター）</li> <li>・会報 Access や教育センターのホームページ、YKK 教育相談室だよりで、一時帰国等の家庭にも広く情報を発信している。</li> </ul> <p>③ について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外研修報告 清明中学校 教諭 朝倉 真樹子 先生</li> <li>・帰国児童生徒教育研究会 全体研修会（5/29 教育センター） 「海のむこうで暮らしてみれば～家族5人のギリシア生活～」 講師 桶屋 宗伯 先生</li> <li>・国際理解研修会（9/26 中央小学校） 東部教育事務所 指導主事 金山 光昭 先生</li> <li>・県外研修報告や講師による講演会を通して、多文化共生の視点を持ち、帰国児童生徒や外国人児童生徒への支援の一助とすることができた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任と連携を図り、個々の児童に応じた指導を継続する。</li> <li>・多くの親子に保護者会やサマースクールに参加してもらえるよう、魅力的な活動を工夫していきたい。</li> <li>・来年度も国際教育について参加者全員が知見を深めることができるような研修内容を検討したい。</li> <li>・黒部国際化教育推進事業の中での位置付けについて検討を要する。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>

## 5 学校教育を支援する調査・研究の推進

事業・研修会名	5－(1) 全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用
内容・方策	<p>全国学力・学習状況調査の結果等を生かし、市内小・中学校の児童生徒の学力向上や基本的な生活習慣の定着を図ることができるように支援する。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果分析等を行い、校長研修会で概要を報告する。さらに報告書としてまとめ、各学校に配付する。報告書は小・中学校における学力向上のための参考となる内容にする。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和7年度 全国学力・学習状況調査報告書」では、教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）や児童生徒質問調査の結果について、その概要を冊子にして昨年度よりも1か月以上早く報告した。</li> <li>・結果の分析では、「設問別正答率の学校間の開き」「児童・生徒質問紙調査結果と各教科の調査結果との相関関係」「児童生徒質問紙調査の経年比較」等を示し、小・中学校が学力向上に向けた取組をする際に参考となるデータを提供した。各教科の問題については、全国と比べて平均正答率が低い問題について分析し、提供した。</li> <li>・教科に関する調査においては、全ての教科で全国平均を上回った。</li> <li>・児童生徒質問調査においては、課題解決学習への取組、ICT機器の活用という点に課題があることが分かった。</li> <li>・研修会の際に、報告書の内容をもとに先生方に分析してもらい、黒部市の成果や課題について考える機会を設けることができた。</li> <li>・学校質問調査の結果を示すことで、学習指導要領が求める資質や能力を確認し、授業改善等に生かすことができた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査の結果を受けて、授業改善をどのように進めるのか、児童生徒の教育環境をどのように整えるのかなどについて、引き続き情報交換や意見交流する場を設定することが望まれる。次年度は中学校で英語の調査があるので、外国語教育研究部会等でも結果の分析を行うなど工夫をしていきたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	5-(2) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析とその活用
内容・方策	<p>全国が実施している「令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」や富山県が実施している「令和7年度富山県児童生徒体力・運動能力調査」を生かし、市内小・中学校の児童生徒の体力・運動能力の向上や基本的生活習慣の定着を図ることができるように支援する。</p> <p>○一昨年度から体力測定結果をタブレットで入力して県に報告しデータを共有している。結果については学校ごとにダウンロードできるようになっている。市としてのおおまかな結果のみを連絡することとする。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力調査の結果を「令和7年度体力・運動能力、運動習慣に関する調査結果の概要」としてリーフレットでまとめ、各校に配付した。例年、報告が年度末になっていたが、今年度は11月中にリーフレットを配付することができた。結果を受けて3学期からの指導に生かしたり、次年度に向けて各校の教育計画につなげていけるようにした。</li> <li>・「とやまげんきっこチャレンジ」を利用したタブレットでの個人結果入力により、各校への県からの報告は11月頃までに届く。それぞれの学校で結果をもとに課題をあげ、対応策を考えて実践していくのか効果的だと思われる。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果を次年度の教育計画やアクションプランの作成に生かすことができるように、なるべく早く結果の概要を知らせていく。また、黒部市としての課題改善を進める場合は、体育主任等で意見交換をするなど、結果を活用する場を設定していく必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も細かい分析はせず、結果のみの報告とする。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>5－(3) 市科学展や発明くふう展への協力、吉田科学館との連携</b>
内容・方策	<p>吉田科学館との連携事業を通して、児童生徒の自然や宇宙の事象に対する見方・考え方を育て、科学的に判断したり処理したりする能力を養うとともに、旺盛な探究心と豊かな想像力を育成する。</p> <p>① 市科学展や発明くふう展への理解啓発活動を行う。</p> <p>② 小学4年生、中学3年生を対象としたプラネタリウム学習を企画する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>① 市科学展・発明工夫展 【 】内は前年度との比較  <b>【魚津地区理科自由研究・発明くふう参考展】</b>  6月28日～7月6日  展示作品数 40点【-1】  （魚津6点、黒部18点、入善16点、朝日0点）  参考展来場者数 166名【+38】（来館者数 1041名）【+496】  <b>【第19回黒部市少年少女発明くふう展】</b>  小学校の部 96点【-17】  （低学年21点、中学年41点、高学年34点）  中学校の部 11点【-1】  発明くふう展 会期中の来館者数 1118名【-42】  <b>【第19回科学作品展】</b>  小学校の部 53点【+9】  （低学年17点、中学年17点、高学年19点）  中学生の部 12点【+4】  （1年生6点、2年生5点、3年生1点）  科学作品展 会期中の来館者数 753名【-109】</p> <p>② プラネタリウム学習  <b>【担当者事前研修会】</b> 5月28日 3名参加  <b>【小4プラネタリウム学習】</b> 6月～11月実施 9校（児童279名）  ・4次元デジタルビューワーMitaka 視聴 3校  ・サイエンスショー見学 3校  <b>【中3プラネタリウム学習】</b> 1月実施 2校（生徒346名）  ○アンケート結果  ・全ての学校が、「大変参考になった」「参考になった」と回答。  &lt;アンケートより一部抜粋&gt;  ・プラネタリウム学習を通して星に興味をもち、夏休みの自由研究をしたり、2学期の学習に生かしたり、意欲的に月の観察をしている子供がいたりして、プラネタリウム学習がとても生かされていると感じた。  ・どの児童も意欲的にいろいろな実験道具を試し、科学の面白さに触れる姿が見られた。</p>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉田科学館の職員の方のサポートもあり、スムーズに科学作品や発明くふうの作品の展示会を行うことができた。</li> <li>・プラネタリウム学習の日程調整を学校間共有システムを利用して以前よりもスムーズに行うことができた。事後アンケートについても改善していきたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>5－(4)情報教育研究委員会</b>
内容・方策	情報教育研究委員会では、黒部市の児童生徒の情報活用能力の育成及び向上、及びGIGAスクール構想の推進を図る。
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p><b>【情報教育研究委員会の開催】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の端末OS更新に向けて準備することや、児童生徒への指導について、保護者配付資料等について事前に確認したり共有したりした。</li> <li>・情報教育研究委員や市教委担当者、教育センター担当者が情報共有できるチャットを開設し、端末導入に係る情報共有がスムーズに行えるようにした。</li> <li>・「情報活用能力の育成」を目指し、一昨年度作成した「黒部市情報チェックシート」を活用し、市内小中学生に自分の今の状態をチェックしてもらい実態把握をした（7月、1月）。</li> <li>・「黒部市情報チェックシート」を各学校でどう活用したかや、課題等について情報共有を行った。</li> <li>・各学校や黒部市全体の結果や実態をもとに、情報活用能力体系表の見直しをした。</li> <li>・研究委員会はペーパーレスとし、事前に配布した資料を各自が端末にダウンロードするなどして実施した。</li> <li>・本年度は、新たに4校でeライブラリの活用に関する出前研修を実施した（昨年度3校）。児童生徒のeライブラリの活用状況については、大幅なりニューアルの成果もあり昨年度を上回った。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内で足並みが揃ってきているものも増えてはいるが、端末の持ち帰りや生成AIの使用等、各学校でルールがバラバラになっているのが現状である。学校によって児童生徒の実態が違うので仕方がない面もあると思うが、セキュリティポリシーの策定を進め、情報共有をしていく必要がある。</li> <li>・センターのWi-Fi環境が悪いため、研修会で動画再生がうまくできないことが複数回あり改善を図る。モバイルルーターが2台しかなく、大人数の研修には対応できないので場所やルーターの購入を検討する必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>

## 6 幼・保・こ・小・中学校の連携

事業・研修会名	<b>6 幼・保・こ・小・中学校の連携</b>
内容・方策	<p>子供たちが健全に成長できるよう、幼稚園・保育所・こども園と小学校、小学校と中学校での情報共有や連携を深めるための方策を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校（園）訪問において、幼稚園、小学校・中学校の連携の視点をもって指導助言にあたる。</li> <li>○ 中学校区ごとに生徒指導や教科指導に関する共通した方針を立てて実践していくことができるように、各種研修会での情報交換の在り方を工夫する。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導に関する研修会や協議会においては、中学校区ごとにグループを編成し、小・中学校教員が情報交換や指導方針を共有できるようにした。</li> <li>・各校の生徒指導におけるケース会議において、SSWや中学校のカウンセリング指導員、特別支援教育コーディネーター等が参加して、情報を共有し、切れ目のない指導・支援ができるように配慮した。</li> <li>・外国語教育研究委員会、情報教育研究委員会等において、小・中の教員が共に研究や研修に取り組む中で、それぞれの専門性や経験から得た知見を交流できるよう配慮した。</li> <li>・幼稚園での訪問研修では小学校との連携・接続、小学校の訪問研修では中学校への連携・接続を念頭に置いた指導助言や情報共有を行った。</li> <li>・県幼児教育センター主催の幼児教育接続研修に参加し、他市町の幼小接続の先進的な取組について情報共有することができた。</li> <li>・市でも8月に幼小接続研修を今年度より開催し、市内教員や保育士等41名が参加した。新タSVより幼小接続を円滑に進めるためのポイントを教えていただいたり、中央小学校 松田教諭より幼小接続のための具体的な取組について事例提供をしていただき、受講者の先生方が接続についての具体的なイメージをもつことができるようにした。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の教育が小学校低学年の学習に円滑に接続されるように、小学校の通常訪問において、接続の視点をもって指導助言にあたる。</li> <li>・架け橋期プログラム作成等、幼保小の今後のさらなる連携に向けて、中心となる部署を決めて進めていく必要がある。</li> <li>・生徒指導主事等研修会や特別支援教育研修会等で、小・中学校の切れ目のない指導・支援を意識して、研修会や研究委員会等の内容を設定していく。</li> <li>・幼・保・こ・小・中学校の円滑な接続について、担当者だけでなく学校全体で意識を高めていく必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>

## 7 迅速な教育サービスの提供

事業・研修会名	<b>7-(1) 情報提供、研究成果の還元</b>
内容・方策	<p>児童生徒、教職員が、安心・安全によりよい学校生活を送ることができるよう、必要な情報を迅速に提供し、情報の共有化を図る。</p> <p>○不審者情報が出た場合、市教委と相談のうえ、迅速に学校や公民館等に連絡する。長期休業中の危険・問題行動については、連絡ルートに従って小・中学校に連絡する。 (熊情報については市教委から連絡する)</p> <p>○報告書や資料の作成については、市教委や各部長（担当校長）と連携しながら取り組む。</p> <p>○教育センターだよりを発行し、市内の教員や学校の取組の紹介、市内の教育の動向や教育センターの事業等を紹介する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者情報については、情報が入ってきたものは市教委と連携し、内容について相談しながら、確実に対応することができた。黒部市教育センターから市内の全保護者に不審者情報の安全メールを流すこととした。(21回)</li> <li>・報告書や資料の作成、教育センターからの提案については、市教委や校長会等、関係機関に相談しながら進めた。市教委や校長会等、関係機関からは、様々な助言をいただき、それらに基づいて報告書や提案を改善した。報告書等の内容を活用して市教セの研修の資料とし、先生方の教育活動に活かしてもらえるようにした。</li> <li>・教育センターだよりやHP等を通して、教育センターでの研修、新規採用教員の紹介、教育委員からの教育への思い、教員や各学校の研修報告、教育支援センターの様子等、幅広く紹介することができた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者情報については、迅速な対応が求められる。最近は保護者が直接警察に連絡し、警察からの安全メールが流れ、それを受けて教育センターから学校の安全メールを流すことが増えた。新年度に全保護者に警察の安全メールへの登録を再度促すようにしたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>7-(2) 視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷</b>
内容・方策	<p>学校行事の運営支援や教育指導、教員研修の質的向上に資するために、書籍や教材等を貸し出したり、印刷物を作成したりといった教育サービスを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 視聴覚教材、書籍等を購入・整備し、広報活動に努める。</li> <li>○ 大型プリンターによる印刷物の作成を迅速に行う。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の教材の貸し出しは、以下の通りである。</li> <li>※2月末の数値。( )内は前年との比較。</li> <li>◇視聴覚教材 8件(-4)</li> <li>◇プロジェクター等の教具 2件(±0)</li> <li>◇WISC-IV等の検査類 1件(-4)</li> <li>◇教科書 68冊(-68)</li> <li>◇書籍 41冊(+3)</li> <li>・大型プリンターによる印刷物の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇垂れ幕 25件(+8)</li> </ul> </li> <li>・視聴覚教材や教科書の貸し出し数は減少した。</li> <li>・本棚に種類ごとに整理したり、研修会の講師を務めていただいた方の書籍を展示したりして、見やすい展示となるように工夫した。</li> <li>・新規に購入した書籍・教材等については、「おすすめ書籍」として、教育センターだよりに載せて周知に努めたり、研修会の際に広報したりした。</li> <li>・研修会の事後アンケートに購入を希望する書籍を記入してもらい、その書籍を購入した。</li> <li>・大型プリンターによる印刷については、小学校の他、研修会や研究会でのニーズがある。職員の連携により、迅速に対応し、依頼の翌日には各校へ提供できるように努めた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期初め等に視聴覚教材や書籍の希望を呼びかけたり、研修会後に書籍の貸し出しを勧めたりするが、利用者があまり多くない。今後も継続して希望を聞いたり、タイミングを工夫して貸し出しを勧めたりするようにしたい。</li> <li>・資料をデータでほしいという声が増えているので、学校共有間に「お助け箱」をつくって資料提供している。</li> <li>・現場で役立つ資料の用意ができるように、最新の教育課題をもとに調査を進め、整備を行うとともに、さらなる広報活動の工夫が必要である。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和8年度も継続する。</li> </ul>